

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット

住所 東京都新宿区戸山1-21-1

代表 TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

地域医療連携室

直通 TEL 03-3202-8066

FAX 03-3202-1003



連携医療NEWS

Vol.34 9月号

内容

- ・新任あいさつ 1
- ・新任あいさつ 2
旬の味覚
- ・CLSの紹介 3
看護通信
- ・連携医の紹介 4

新任あいさつ

第二糖尿病科医長

中條 大輔



2015年5月1日付けで糖尿病内分泌代謝科に着任いたしました中條大輔（ちゅうじょうだいすけ）です。専門分野は糖尿病で、特に1型糖尿病の臨床・研究に長年取り組んできました。

出身医局は金沢大学第二内科で、当初は糖尿病臨床に明け暮れていました。その中で治療に難渋する1型糖尿病患者さんを経験する度に医療人としてもどかしさを感じていたところ、米国テキサス州ダラスのBaylor大学で膵島移植を経験する機会を得ることができ、1型糖尿病の成因である自己免疫に関する研究も行いました。帰国時の2012年に国立国際医療研究センターで膵島移植を立ち上げるプロジェクトが発足し、研究所でその準備を担当させていただいたことが当センターにお世話になるきっかけとなりました。その準備は着々と進行し、実際にレシピエント候補を登録する段階に至りました。

本年度からは病院の糖尿病科医長を拝命し、糖尿病に対する先進的な医療を実際に患者さんに提供する立場として邁進する所存です。その一環として、

7月より「先進1型糖尿病外来」を開設いたしました。（www.ncgm.go.jp/hosp/20150724.html）リアルタイム血糖モニタリングが可能なインスリンポンプ療法（Sensor Augmented Pump; SAP）や重症低血糖を来す不安定1型糖尿病を対象とした膵島移植といった先進的な膵臓細胞機能補充療法、人工膵臓を用いた詳細な病態評価などを提供することを目的としています。将来的には、成因に対する根治的なアプローチとして免疫学的な介入法も探索していければと考えています。もちろん、2型糖尿病等を対象とした教育入院や外来での療養指導・投薬調整などにも引き続き注力いたします。比較的新しい糖尿病治療薬も、使用経験を活かした的確な症例選択のもと積極的に導入して行き、その後の経過を還元させていただければと考えております。

これらの取り組みは、病棟・外来の看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士といった糖尿病療養指導士の協力なくしては成立しません。当センターでもこれらの方々のご協力のもと、チーム医療で糖尿病患者さんに笑顔をお届けできればと考えています。

このように、1型糖尿病の新規発症例や治療に難渋する症例、生活習慣への介入や投薬の再検討が必要な症例など、あらゆる患者さんに対応すべく体制で頑張っ参りますので、ご指導・ご鞭撻をいただければ幸いです。何卒よろしくお願いたします。

新任あいさつ

第二泌尿器科医長

山田 大介



このたび2015年7月1日より泌尿器科に就任しました 山田 大介（やまだ だいすけ）です。香川医科大学医学部医学科（現 香川大学）を卒業後、東京大学泌尿器科学教室に入局、その後、東京大学医学部附属病院、三井記念病院、国立がんセンター研究所（築地）、ハーバード大学医学部附属マサチューセッツ総合病院（米国ボストン）、千葉西総合病院等を経て当院に参りました。当院に手術支援ロボット、ダビンチXiの導入が予定されているため赴任しました。日本泌尿器科学会専門医指導医であり日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医です。さらにダビンチシステムのコンソールサージャンでもあります。当院でも通常の手

術はもちろん、腹腔鏡手術、ロボット支援手術が有効に安全に行われ、患者様の健康を守れるよう医療に誠意努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。また、当院のもう一つの課題である研究に関しましては、がん予防薬の開発、癌細胞可視化による術後再発予防技術の開発、人工膀胱の開発、結石破砕片排出促進機器の開発、排尿後尿滴下防止薬の発見などが主なものです。実用化により皆様のお役にたてる物ばかりだと思います。道のりは険しいですが精進していきます。



旬の味覚 鮭

管理栄養士

大橋 恵里



鮭は川で生まれ海へと下り成長して、再び生まれた川へと帰ってきます。水揚げのピークは鮭が産卵のために戻ってくる9～10月で、この時期に漁獲される鮭は「秋鮭」と呼ばれ、北海道のほぼ全域で漁獲されます。鮭はたんぱく質が豊富で、脂質には動脈硬化予防に役立つEPAやDHAを含んでおります。また、鮭の赤い色素には抗酸化作用があると言われるアスタキサンチンが含まれていて、活性酸素を取り除き、生活習慣病の予防や老化を抑える働きがあります。

しめじやえのきなどのきのこも秋の味覚です。きのこにはグアニル酸という旨味が含まれており、鮭ときこのこを一緒に召し上がっていただくのもおすすめです。

～鮭のホイル焼き～

- 材料(2人分)○
- ・生鮭 2切れ (160g)
 - ・塩 1g
 - ・酒 大さじ1
 - ・玉ねぎ 80g
 - ・しめじ 50g
 - ・えのき 40g
 - ・ホールコーン缶 20g
 - ・レモン 輪切り1枚
 - ・バター 10g
 - 〈お好みで〉
 - ・パセリ 適量
 - ・醤油またはポン酢 適量
- (1人当たりエネルギー 259kcal 塩分0.8g)



○作り方○

- ①鮭は塩を振って酒をかけ下味をつけて、10分くらい浸しておく。
- ②玉ねぎは薄くスライスし、しめじ、えのきは石づきをとっておく。
- ③アルミホイルに玉ねぎを敷き、その上に鮭としめじ、えのき、ホールコーン缶、バター、輪切りにしたレモンをのせて、アルミホイルで包む。
- ④オーブントースターで10～15分程度焼く。またはフライパンに蓋をして10分程度蒸し焼きにする。
- ⑤アルミホイルを開けて、お好みでパセリ、醤油やポン酢をかけて出来上がり。

お知らせ

国立国際医療研究センター病院では、2015年10月1日より、日本の健康保険資格を有していない外国人患者さんの診療については、**診療報酬点数1点につき20円**を請求することになりました。海外在住で日本の健康保険資格を有していない日本人患者さんの診療についても、同様の取扱いとなります。

チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)のご紹介

チャイルド・ライフ・スペシャリスト

大曲 睦恵



チャイルド・ライフ・スペシャリスト (Child Life Specialist: CLS) の大曲 (おおまがり) と申します。チャイルド・ライフ・スペシャリストとは、Child Life Council (北米チャイルド・ライフ協会) による認定資格 (5年毎の更新制) であり、医療に関わる子どものPTSDの予防、QOLの向上、発達支援、ストレスの軽減、コーピングスキルの促進など心理社会的支援を目指す専門職です。北米の大学・大学院にてチャイルド・ライフの理論と実践 (小児科でのインターン480時間) を履修・修了し、北米チャイルド・ライフ協会による認定試験を受け資格取得となります。アメリカでは、遊びを通じたサポートプログラム (チャイルド・ライフ・プログラム) の担い手として1950年代から発展しており、主に北米を中心に、こどもと関わる様々な場面 (病院・ホスピス・クリニック・障害者施設・就学前児童教育・裁判所・青少年更生施設など) において需要が高まっています (Child Life Council 2014)。日本では、現在35名ほどのチャイルド・ライフ・スペシャリストが医療機関中心に、活動をしています。

当院では、2011年から少しずつ活動を始めさせていただきました。活動の場は、小児科病棟を中心に、成人病棟にうかがうこともあります。私たちの活動の基盤は「遊び」であり、遊びを、ストレスを発散・消化し、気持ちを癒し、その子らしく成長していくための大切な手段と考えています。小児科で

は、他の医療スタッフと協働し、子どもの気持ちや意思を尊重し、その子のがんばりをサポートします。そのために、遊び・遊びの環境の提供として、子どもにとって生活の中心である遊びを、病院でも安心してできるように支援します。また、こころの準備のお手伝いとして、処置・検査・手術など、その子なりに乗り越えられるように、それぞれの個性や発達に応じて、その子が体験する (体験した) 医療経験について、話をしたり、ぬいぐるみなどを使い一緒に練習をしたりします。実際の処置や検査に付き添い、がんばりを応援することもあります。

成人病棟では、病気のご家族をもつ子どもたちが、安心して毎日を過ごせるよう、病棟や緩和医療ケアチームのスタッフと連携し、支援を行っています。具体的には、それぞれのご家族の状況に応じて、お子さんにどのように話をしていくかなど、最善の支援体制を一緒に考えたり、お子さんとの遊びや会話を通し、お父さん・お母さんの病状や入院などの状況をお子さんがどのように感じているか、理解しているかを見極め、それをもとにご家族が、お子さんどのように過ごすことができるか、を考えるお手伝いをしています。今後も周りのスタッフの方との連携を大切に、患者さん、ご家族に寄り添ったサポートを目指したいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



家族の手形作り

看護通信

緩和ケアチーム専従看護師/がん性疼痛看護認定看護師

森清綾子

当院には、患者さんのからだこころの辛さをケアする緩和ケアチームがあります。医師・看護師の他に薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・臨床心理士・チャイルドライフスペシャリストなど様々な職種のメンバーが在籍し、週2回カンファレンスと回診を行っています。私は今年4月より緩和ケアチームの専従看護師となりました。緩和ケアチームに依頼があった患者さんのところに最初に伺って、患者さんが今一番困っていること、また専門的な介入が必要な問題がないか等、情報を整理しチームメンバーへ伝達します。また、主治医チーム・病棟看護チームとの顔の見える連携を心がけています。「緩和ケア=がん」というイメージが強いですが、当院は急性期総合病院であり、がん患者さん以外にも緩和ケアチームがサポートを行っています。



連携登録医のご紹介



早稲田たけのこクリニック

院長 松下 竹次 先生

この度、早稲田鶴巻町に小児科医院を開院いたしました。私は、長らく国立国際医療研究センター（NCGM）の小児科に勤務しておりました。病院に勤務しているときには、自分では地域の医療状況をよく理解していると思っておりましたが、実際に自分が地域医療機関の一員となってみると、実は知らないことが沢山あったということに改めて感じています。医療従事者ばかりでなく、保健所やこども家庭支援センターなど小児科がよくお世話になる方など、人々の暮らしに密接な役割を果たしていることも改めて感じています。

当院の開院後に、早速にしてNCGMに患者様がお世話になりました。NCGMに対して、地域の人々の信頼や期待は非常に大きく計り知れないものがあると感じています。日々の臨床で病院と医院の大きな違いの一つは、時間外診療を行えるかということです。重症な患者や先進的な医療の提供など病院の責務は大きなものがありますが、休日や深夜などの時間外の診療体制がしっかりしている医療機関

診療科 小児科
 住所 新宿区早稲田鶴巻町518 第一石川ビル3F
 電話 03-3232-8155
 FAX 03-3232-8156
 診療時間 月・火・水・金・土 9:00～12:30
 月・火・水・金 15:00～18:30
 休診日 木曜・土曜午後・日曜・祝日
 交通 東京メトロ東西線「早稲田駅」3a出口徒歩4分
 都電荒川線「早稲田駅」より徒歩5分
 ホームページ takenoko-clinic.tokyo/

の存在は大きな意義がありますし、地域の人々もそのことをよく理解して下さっていると感じます。

さて、実際に地域の人々から信頼される存在になるためには、何よりも提供する医療がしっかりとすることが重要であります。小児の医療は疾患を対象とするばかりでなく、より健康志向へと向かいつつあります。健診や予防接種は勿論ですが、障がいのある方や小児期に慢性疾患であった方の健康相談や診療もできるようなになればと考えています。自らの経験に頼ることなく様々な方の意見を十分に取り入れて安心して医療を提供できるようにしたいと感じています。今後、皆様の益々のご指導をいただきたく存じます。



医師人事異動

採用・転入等				退職・転出等			
発令日	役職名	氏名	備考	発令日	役職名	氏名	備考
H27.9.1	ペインクリニック内科医長(昇任)	伊藤 大真	一般医師より	H27.9.1	脳神経外科医師	大野 博康	国府台病院脳神経外科医長へ配置換(昇任)

外来診療時間 8:30～17:15

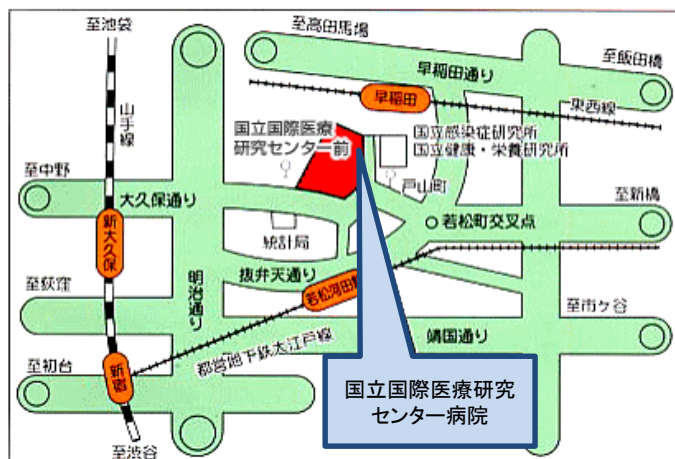
・初診受付 紹介状が無い場合 8:30～11:00
 紹介状が有る場合 8:30～14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

・休診日 土・日・祝日・年末年始

アクセス

- ・都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- ・東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- ・JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行 国立国際医療研究センター前 下車
- ・新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行 国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人

国立国際医療研究センター病院

TEL 03-3202-7181 FAX 03-3207-1038 ホームページ <http://www.ncgm.go.jp/>

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1

